

米FOMCに向けて物価に注目＝米CPI&PPI

2026年9月7日(月)

10日に米生産者物価指数(PPI)、11日に米消費者物価指数(CPI)の発表が予定されています。
米連邦準備制度理事会(FRB)のウーシュ議長は8月28日のジャクソンホール会議での基調講演において、「PCEの2%目標、確固たる揺るがない目標」「目標に向かい明確かつ十分なペースで向かっていかないのであれば、FRBはやるべきことがある」「政策金利の調整がデュアルマンドートを実現するための主要な手段」「労働市場はかなり安定しており、FRBが現在最も注力すべきは物価である」などと発言しました。
インフレの高止まりへの警戒感を示し、物価動向を警戒しつつ、利上げに向かう姿勢を示唆する形となり、講演を受けて9月15日、16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)の見通しは、据え置き65%、利上げ35%という状況から据え置き35%、利上げ65%に変化し、利上げ期待が多数派を占める状況となりました。
米国のインフレーターゲットの対象であるPCE(個人消費支出)価格指数の8月分は9月30日の発表となり、今月のFOMCには間に合わないこともあり、同様の指標であるCPI及びCPIやPCEに対して先行性があるPPIの最新データに対して注目が集まります。

7月の米CPIは前年比+3.4%、変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア前年比+2.5%となりました。ともに市場予想と一致したものの、6月の+3.5%、+2.6%から鈍化しています。
中東情勢を受けた原油高への警戒感は継続していたものの、6月7月と価格が落ち着きを見せており、ガソリン価格も低下していたことで、全体を押し下げました。7月のガソリン価格は前年比+24.6%と6月の+26.7%から鈍化。エネルギー価格全体でも+14.7%と6月の+15.7%から鈍化しました。食品価格は豚肉価格の低下、レタス価格の急落(前月比-16.4%)などを受けた前月比で伸びが鈍化も、前年比では+3.0%の横ばいとなっています。
コア項目では、財部門が前月比で+0.2%と6月の-0.1%から回復。衣料品や中古車が前月比で上昇したことが押上材料となりました。もっとも前年比では+0.8%で横ばいとなっています。コアサービス部門は前月比+0.2%と6月の前月比横ばいから伸びが強まりましたが、前年比では+3.0%と6月の+3.2%から伸びが鈍化しました。自動車保険の前年比-4.5%などを受けて輸送サービスが+2.9%と6月の+3.4%から鈍化したことが全体を押し下げています。

こうした状況を受けた8月のCPIですが、前年比+3.4%と前回と同水準見込みとなっています。
中東情勢警戒もあって原油価格が上昇、ガソリン価格も上昇傾向となり、前月比では+0.4%と7月+0.1%から伸びが強まる見込みですが、前年比ベースではコア項目の鈍化期待もあって落ち着くとみられます。コア前年比は+2.4%と7月の+2.5%から鈍化。同前月比は+0.2%で7月と同水準見込みです。

8月のガソリン価格は米エネルギー情報局(EIA)の全米全種平均で1ガロン当たり4.192ドルと7月の4.064ドルから3.15%の上昇。前年比でも伸びが鈍化しています。一方コア項目に関しては比較対象元の2025年7月の数字が、自動車や医療費の伸びを受けて6月から伸びており、ベース効果で見かけ上伸びが鈍化するとみられます。

CPIの前日10日に発表される8月の米生産者物価指数(PPI)は、前回7月のPPIは前年比+4.7%と6月の+5.5%から大きく鈍化しました。市場予想の+4.9%も下回っています。ガソリン価格の低下とそれを受けたエネルギー高一服がPPIの伸び鈍化につながりました。CPI同様にレタス価格下落(前月比-73%)からの食料品の下げも見られました。レタス価格の低下は、現在米国で流行するサイクロスポラ症の発生要因として、需要を控える動きが広がったことが背景にあります。サイクロスポラ症の流行はまだ続いているので、8月の数字も警戒が必要です。

今回の市場予想は前年比+5.2%、食品とエネルギーを除くコア前年比が+4.6%とともに7月の+4.7%、+4.2%を超える伸びが見込まれています。
中東情勢への警戒を受けて原油高が進む中で、エネルギーの反発が見込まれています。

CPI,PPIがともに市場予想を超える伸びとなった場合は、今月のFOMCでの米利上げ期待が高まりドル高となる可能性があります。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によつてなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブソリューションサービス」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブソリューションサービス」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド